

# 弔辞

羽田雄一郎先生、本日、この会場に、実に多くの、実に多くの党派を超えた国会議員一同が参列いたしております。

もう旅立たれて、一年と半年以上、経ってしまったなんて今でも信じられません。笑顔で会話した二十二十年一月二十二日の党常任幹事会がこの前の時のこと、そう思えてしまいます。誰からも愛され、慕われ、そしてより大きな期待を受ける中で、突然に、あまりに突然に、先生は世を去られました。

あらためて（参議院当選五回、国土交通委員長、沖縄及び北方問題に関する特別委員長、元国土交通大臣 従三位旭日大綬章、）羽田雄一郎先生に、謹んで哀悼の誠を捧げます。

奥様七栄様、羽田次郎様をはじめ、ご遺族の皆様深く、深くお悔やみ申し上げます。

此度のお別れ会は、コロナ感染拡大によって幾度も延期を余儀なくされました。本日に至るまで羽田事務所、千曲会、後援会をはじめ皆様には、相当のお骨折りをいただきました。心より感謝申し上げます。

西暦二千年の総選挙、私は二十五歳で初挑戦。雄一郎さんは参院補選で当選したばかりの三十二歳。京都三区に応援に来てくださいましたね。その時からのご縁です。

ご参列の皆様は、どなた様も羽田先生との思い出がいっぱいかと存じます。同級生の方、ご友人、後援会、ご親族の皆様、と

も歩んだ日々は、さぞかし思い出深いことでしょう。私も、もう声を聴くことのできない悲しみと、これまでの感謝の気持ちとが、複雑に交差しています。

国交大臣ご就任の直前、全国各地で登下校中の児童の列に自動車突っ込む痛ましい事故が相次ぎました。先生は大臣に就任すると、さっそく全国千八百か所の通学路の安全対策予算を予備費に盛り込んでくださいました。この予算は本当に心強かったです。全国の保護者と子どもに安全を届けました。子どもたちの命や育ちに関する政策には、いつも全力でしたね。心から感謝しています。

二千二十年の合流新党代表選挙、「健太、厳しい時こそ引き受けるよ」。との先生の言葉に背中を押されました。先生は選対本部長に就任してくださいました。

衆議院と参議院の所属議員全ての部屋への挨拶。先生は先頭を歩いて出発したものの、次第に汗だらけになり、ついに上着を脱いで、歩くのを止め、大きく胸をそらせて深呼吸。その姿に、みんなの緊張がほぐれました。急遽、途中休憩の部屋をつくって、そこで本部長は麦茶を一気飲み、また皆が大笑い。

本部長がいてこそ、楽しく、明るく、士気高く戦いました。「代表選を終えたらノーサイドだぞ。」これも口癖でした。さらにいえば、先生にはもっと大きな願いがありました「民主が一つにまとまらないと」。その願い、私たちは何とか果たしたいと思います。

組織を重んじる先生が、珍しく造反したことがありました。

二千二十年一月、政府補正予算。アベノミクス関連なども含まれており我々野党は反対の方針。でも先生は党方針に反して賛成したのです。なぜか？

この予算には千曲川流域に大きな被害をもたらした台風十九

号の復興予算が、羽田先生が篠原議員、下条議員と農水省国交省と協議し確保した復興予算が含まれていたのです。

党として造反は処分対象。でも先生はそれを承知で造反した。あの時の先生の決意のこもった目を覚えています。地元愛、長野県民愛、誰にも勝る政治家でありました。

長野では先生の後進が育っています。

新政信州が誕生し、次郎さんが後継者として当選し、昨年の総選挙で千曲会が支援した神津さんが議席を獲得し、そして今年の参院選、杉尾さんが激戦を勝ち抜きました。多くの自治体議員、県民と協力し、これからも信州の民主は大きく伸びていくことでしよう。

今日午前、上田の墓前に手を合わせました。

でも、雄一郎さん、たぶんいつもは、ほとんどお嬢ちゃん、お兄ちゃん、奥様のそばにおられるのではないですか。なんかそんな気がしました。家族が好きな雄一郎さんだから、そう思いました。私たちも相談があるときはお声かけします。なので、これからも一番に愛する家族を見守っていてください。

今日はきつと、お父様の孜様とこの様子を見てくださっていることでしょう。最後まで働き続けたそのお姿を我々は決して忘れません。そして先生の目指した「子供たちが夢をかなえられる社会」を実現するため、取り組んでまいります。

羽田雄一郎先生、本当にありがとうございました。

令和四年八月二十二日

立憲民主党 代表 泉 健太